

2年生2学期、「中間層」に前を向かせるための意識付け

時期の特徴

生徒ごとの「差」が顕在化する時期。進路が実現できるのか不安を感じて苦手科目を「捨てる」といった諦めの気持ちに陥る生徒が出始める。

指導のポイント

夏休みに計画通りの学習が出来ず焦りを感じ、希望進路も漠然としている生徒を中間層と定め、クラスの大半を占めるそれらの生徒を引き上げる手立てを具体化する。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 中間層に位置する生徒を把握する

……→ 図1

◎部活動や課外活動の中心となり、一見充実した日々を送る2年生だが、実際は大半の生徒が夏休みに思った通りの学習が出来ず、志望校も漠然としており、焦りを感じている状態だ。この状態のままにしていると、部活動を辞めたり、苦手科目を「捨てる」と諦めの心理になりがちだ。図1のアンケートによって、目に見える学力とは異なる指標でどの生徒が中間層に位置するのかを把握し、教師の手立てが必要なそれらの生徒をこの時期の中間層と定め、指導を行う。

2 生徒の「得意」を活用し、中間層に前を向かせる

……→ 図2

◎この時期、焦りを感じている生徒には、自己肯定感をバネにした指導が重要だ。生徒の「得意」を把握することで、心の支えを作りたい。そこで、図2の「得意」把握シートでまず生徒自身に得意だと感じることを記入させる。その後、担任が見た生徒像を記入し、生徒が気付いていない長所も漏らさずに言語化する。更に、進路志望検討会などの場を利用して、教科担任など複数の教師の目で生徒自身が気付かない得意分野を探っていく。学年団が生徒一人ひとりを下支えしていくことで、個々の生徒が前向きになり、3年生に向けて「団体戦」の雰囲気がつくられる。

対教師へのデータ

夏休み明けの焦りや危機感、「得意意識」などを個別に把握する

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎図1を用いて、各生徒のモチベーションを把握する。焦りや危機感を巻き返しの意欲と捉える

STEP 2

◎生徒の「得意」を図2で把握する。生徒の記述だけでなく、担任や教科担当が気付いた生徒の特長も記入する

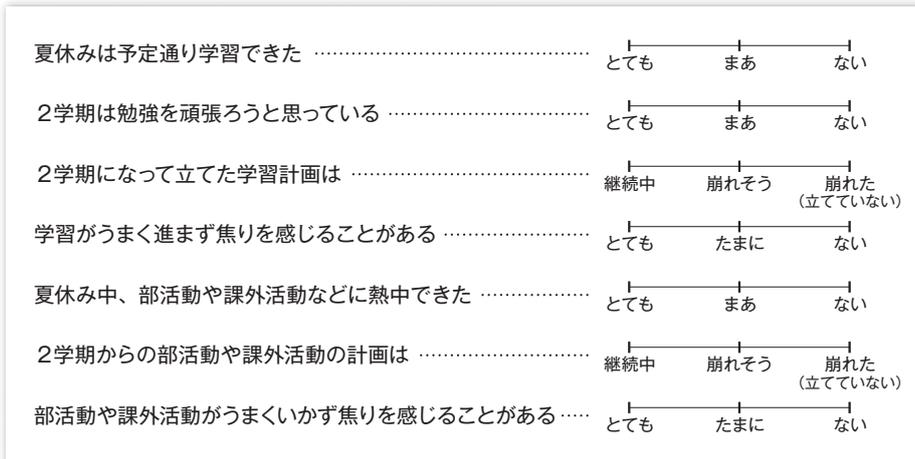
STEP 3

◎進路志望検討会などにおいて複数の目で生徒を分析し、得意なことを生かした具体的な指導について話し合う

STEP 4

◎「得意」を意識した声掛けで生徒の意欲を高め、学習、生活に対して前向きな気持ちにする

図1 生徒のモチベーションを測るアンケート



上位層 モチベーションが高く、夏休み中も継続して学習や部活動が出来た生徒。

中間層 学習や部活動でうまくいかないことがあり、焦りを感じる事が出来る（まだ諦めてない）生徒。

下位層 モチベーションが低く、学習や部活動への取り組みが停滞し、それに対して焦りも感じていない（自分自身を否定的に捉え始めた）生徒。

図2 焦りを前向きな力に転換する生徒の「得意」把握シート

2年()組()番/名前()		こちら側は記入しないこと(担任記述欄)	
学習について	<ul style="list-style-type: none"> 勉強していて楽しい科目 英語 今後、一番成績が伸ばせそうな科目 成績が落ちることがなさそうな科目 	<p>・学年の中で英語の成績は中位だが、予習は手を抜かずに行っている。</p> <p>・毎授業の単語テストではほぼ満点</p> <p>・長文を読む訓練を積み重ねれば更に伸びる!</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や課外活動で楽しんでいること 家に帰って、一番楽しいと思える時間は何をしているとき? 家に帰って、一番落ち着く時間は何をしているとき? 		<p>こちら側のスペースは、生徒から回収した後、担任が気付いたこと(生徒の自己分析とは異なる担任の評価など)を記入する。また、部活動顧問や教科担当にも意見を求め、記入し、面談や声かけに生かす。</p>



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス(プラスαの指導)

**パターン化しない
進路への深い理解が大切**

「数学が出来るので国公立理系」「理科が苦手なので私立文系」といった、パターン化された進路選択に生徒がとどまらないように気を付けたい。教師、生徒共に、このような単純なパターン化で進路を決めがちだが、「出来る、出来ない」ではなく、あくまで重要なのは「何をしたいか」である。現状の成績にとらわれ過ぎず、まずは自分の目標を語れるように指導する。

**様々な視点を投げ掛けて
「得意」を掘り下げる**

学習に対する諦めが強く、モチベーションがなかなか上がらない生徒もいる。そのような生徒には面談で「どの科目の授業が一番眠くならないか」「眠い中、それでも家で教科書を開くならどの科目か」など得意なことに関する質問のハードルを下げてみる。どの生徒にも必ず支えとなる「得意」があると信じて生徒の言葉を引き出し、それを伸ばしていくための個別指導が重要だ。

**複数の手段で
生徒情報を広く集める**

一人の生徒を多角的に評価する進路志望検討会では、出来るだけ多くの教師による生徒分析が行われることが望ましい。そこで、学年にかかわる全教員に用紙を渡し、授業への集中力が高まっている生徒や成績が伸びつつある生徒など、授業で気が付いたことを、とくにプラスの観点から書いてもらう。回収した用紙は検討会で共有し、欠席した教師には後日回覧する。

目的別データ活用

1 部活動での 一体感を活用し 学習時間、学力を 引き上げる

……→ 図3

◎中間層の中には、部活動には熱心に取り組むが学習に気持ちが向いていない生徒も多い。顧問の協力を得て、部活動を活用したモチベーションの引き上げを図りたい。図3を利用して、それぞれの部の2年生に、学年目標としている学習時間を達成するための週間計画を立てさせる。普段から共通の目標で頑張る仲間と、学習面でも同じ目標を掲げさせることで、生徒を前向きにさせたい。学習時間だけでなく、模試成績で共通の目標を立てたり、顧問や部長からの応援の言葉を書き込んだりし、皆で一緒に頑張る雰囲気を大切にする。

2 検討会の議論を 生徒・保護者に フィードバック

……→ 図4

◎各生徒の進路観を醸成し、学習意欲を高めるため、保護者との対話も促していく。だがこの時期に、「進路について家で話し合ってください」と漠然と呼び掛けても、対話はなかなか生まれない。これまでの面談や図2、進路志望検討会などで得られた生徒情報を基に「担任の私はキミの志望をこう理解しているが相違ないか」と出来るだけ具体的に提示する。生徒や保護者にとって担任による生徒への理解は信頼感につながり、仮に担任の理解と生徒の志望に齟齬があっても、それは生徒と保護者、担任が話し合っていく「スタート」として機能する。

対生徒
への
データ

友人や保護者との対話から
モチベーションを高める

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎学年団で部活動と保護者を巻き込んだ意欲の底上げの重要性を確認する	◎部活動顧問に呼び掛けて、部活動と学習を両立する学年団の形成を目指す。各部活動単位で学習計画の目標を立案させる(図3)	◎3者面談の前に生徒・保護者に対して進路面で検討しておいて欲しい事項を示す(図4)	◎図3の学習計画の達成状況と図4の面談事前準備シートを基に、3者面談を行う

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！右のウェブサイトでご覧いただけます。

- 2006年9月号
- 「2年生の夏休み明けの意識付け」
- 2008年9月号
- 「2年生夏休み明けの意識付け」
- 2010年9月号
- 「2年生夏休み後の切り替えと秋からの進路意識の醸成」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導
ツール集

ウェブサイトで
ダウンロード!

図3 部活動ごとの学習時間計画表

■部活動と学習の時間を記入しましょう

部活動名 _____

記入例	5:00	7:00	1限	2限	3限	4限	昼休	5限	6限	17:00	19:00	21:00	23:00	学習時間計
		学習 1h								部活動 1.5h	学習 2h		学習 1h	4 h
月 /	5:00	7:00	1限	2限	3限	4限	昼休	5限	6限	17:00	19:00	21:00	23:00	学習時間計
														h
火 /	5:00	7:00	1限	2限	3限	4限	昼休	5限	6限	17:00	19:00	21:00	23:00	学習時間計
														h

1週間の学習時間の合計 → 目標 h

■上記の目標をみんなで達成するための決意を書こう

■顧問の先生からの応援メッセージ

図4 保護者に対する面談事前準備シート

■面談の前に次の内容について、まず自分で考えて、そして保護者の方と相談しましょう。その上で面談に臨んでください。

第一志望は東京工業大で変更ありませんか？東京工業大だけならば、センター試験は第一段階選抜のみで使われ、合否の判定には含まれないので国・地歴公民はそれほど重要ではありません。ただし、東京農工大まで視野に入れるとセンターの点数も合否の判定に含まれるので国・地歴公民も重要になります。出願校について考えてください。

2年()組()番/名前() 保護者署名()



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ (高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

ストップウォッチで隙間時間の重要性を体感

部活動で学習計画を立てさせた際には、その計画を実現するための工夫や考え方も併せて紹介し、生徒をサポートしたい。例えば「学習時間は週単位で考え、勉強できない日があれば、他の日でまかなう」などが考えられる。更に、通学中や休み時間など、いわゆる隙間時間の学習もストップウォッチで計測し、カウントする。ゲーム感覚で、隙間時間の積み重ねが体感できる。

誤答が多い模試問題を定期テストに組み込む

2学期の学習計画上、11月の模試は重要だ。これに向けて7月の模試の復習をしながら、基礎を固めさせることになる。模試の復習への意欲を高める一つの手法として、誤答が多かった模試の問題を、定期テストで出題することが考えられる。模試を見直す習慣が付いていない層にはとくに有効だろう。また、模試の見直しノートについても、見本を見せながら再度説明したい。

行事の後の切り替えを徹底する

2年生2学期の学校行事は、生徒にとって高校生活の質を左右する重要なイベントばかりだ。行事中はその他のことを忘れて思う存分楽しむべきだが、その後は速やかに切り替えさせたい。行事が終わった直後の遅刻や私語には厳しく指導し、「次の目標に切り替えられないようでは、当校の生徒とは言えない」など、高校生として「あるべき意識」を持たせる。